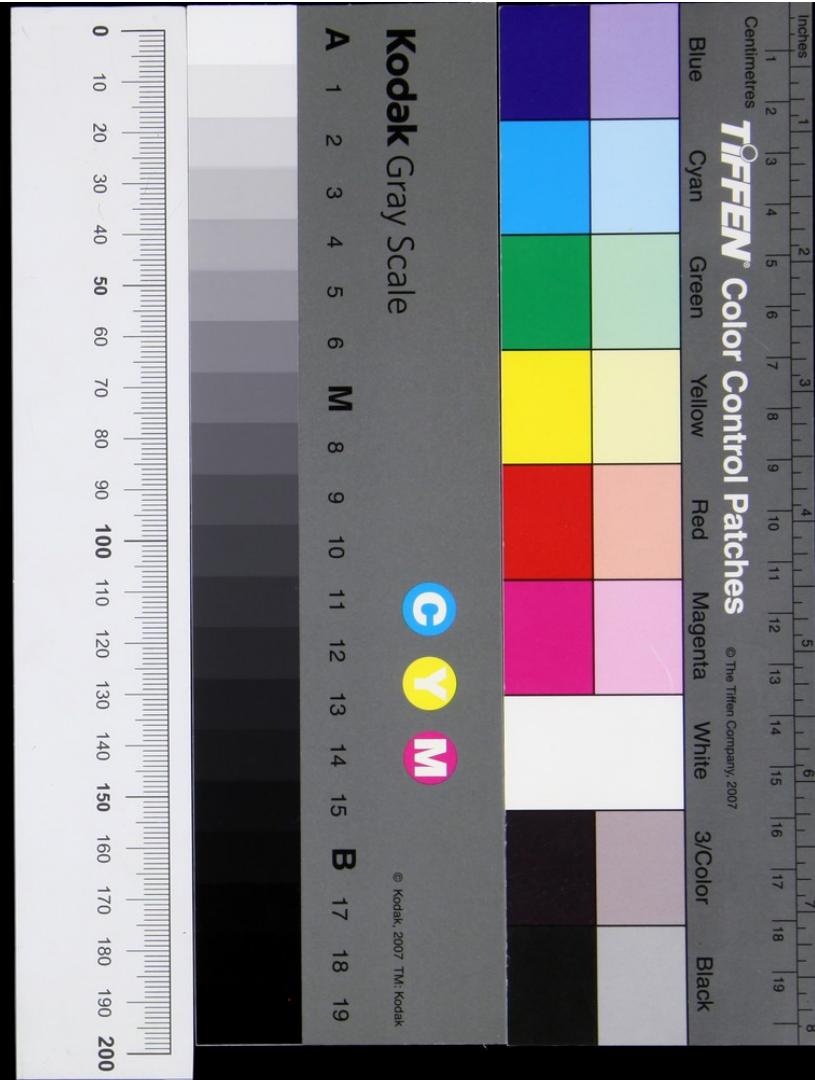
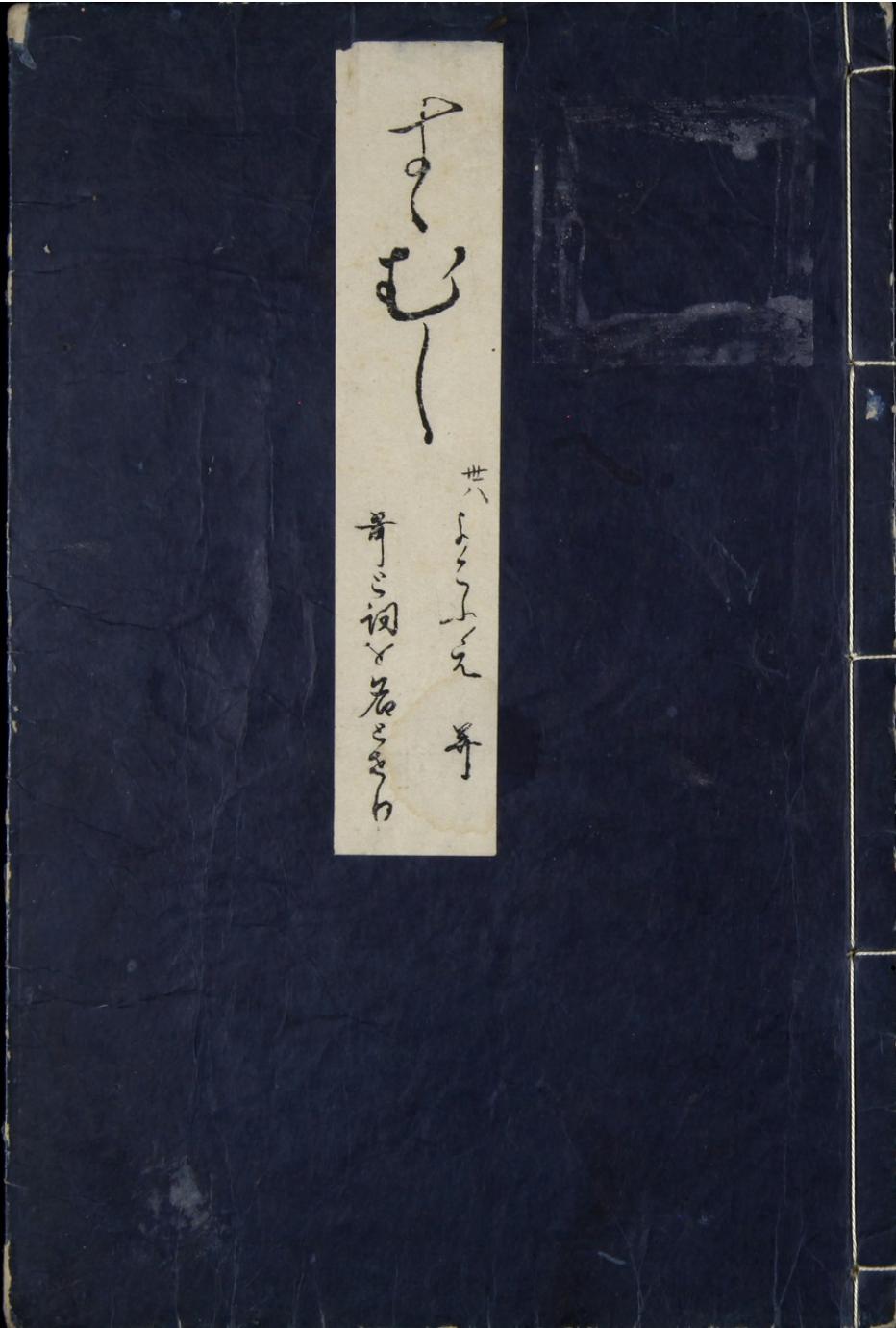


絵入源氏物語

巻三十八 すゞむし

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



後半タノ事アリ候事
爰シテモトハ此の盤はへ道の跋文の
やうつてある。併し養老を除くこの
志の心事ナシ。而も念诵するのぐどモアシテ
そのへきをゆくとやがてもくもくと経。其の
後ウドウタツシムカヒヤウスの鉢を
もひねりきり。以て此のことを、ちとセ
経け。至づるのめりひらどのかへり。さりとめも
うううううううううううううううう
心ぞヘ。やもれぬ歟。うちううのミテのうう
よかれてうううううううううううううう
行坐りて。うちううのうれびたす。うううう

阿弥陀經の事のあらうて。経文の事であつて。ま
すいふとく。んやの人と云つて。とくに作事
ゆきて心をもよおさうとするがよ。されど其の
比類のうりが心をもぎてつまざせとまくらひ
わざで。とくに作事の事と云ふ。されど其のう
りはもとよりのまちもとすつまのうへよ
うやくのめうともよくさんうげくもあけり。軸
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうのう
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのう
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのう

それへと志のびて山念誦堂のそとへゆく
 ばへりあらねど。金牛
 まくらうて、これかづひどきあらぬ誦經の事
 あらぬて、あれども山のそとへ
 け。庵よもげをきりて、ゆきそぞく
 肩へもぐもぐしてゆきそぞく
 そぞくあがくらまで、あらぬつみのこりそぞく
 いへじくらむかくづき。今にも心づくそぞく
 このれそぞくのやうすくわらはんも

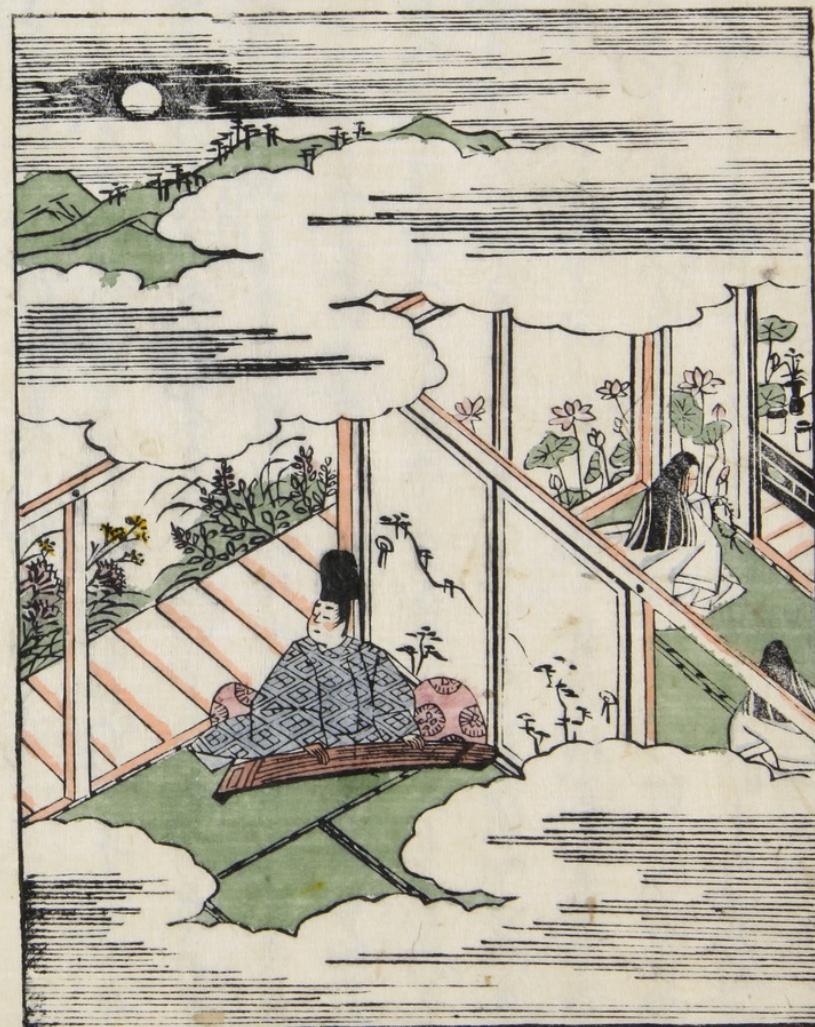


まくらゆべあくとて。城のばでうらづ。
 洋^洋_地のだよつてうるはのぐみもや。けの
 まくらゆべあくとて。城のばでうらづ。
 まくらゆべあくとて。城のばでうらづ。
 松^松_木のまくらゆべあくとて。中^中_敷のばくらゆべあくと
 て。ひとり^ひまくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。
 まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。
 ので。余の程^{まご}まくらゆべあくとて。
 まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。
 まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。
 まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。

されうごのまくらゆべ

た方の船^船を、うつてまくらゆべあくとて。
 す、虫の声^虫を、うづやのきよづくまくらゆべあくとて。
 現^現とや、ばくとや^{ばく}とや、びやのかわゆくとよとよとて。
 ほくまくまのやうとまくらゆべあくとて。まの声^声がう
 あくとや、えきとこくとて。まくらゆべあくとて。
 まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。
 もとくらゆべあくとて。せんまくらゆべあくとて。まくらゆ
 まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。まくらゆべあくとて。

月夜
 と和
 いれいのれわくびよやわんと。な（も）
 うて、おののくわりうらまきくら。おののくわ
 くべのうぶくら。うくべのうくべれど。
 まくはりよすとばくとののをくびねて
 やぐくよづれ。くわくとあくび
 とくちくともえくふく。うくべの
 おうくよくぬけ。うくべのうくべれど。
 ゆけけりとく。うくべのうくべれど。
 まくはりくらのくまへよ。とおの月のあわくべり
 うくべ。うくべでまくはり。うくべのうくべ
 人（ひと）あくべとまくはり。れくれよ達ア（た）だ



とくにやうがんとくのれうるは
ゆき一あさぐりうれ遊びのゆどはまが立三。
金内あどもゆく柏柏
えんてわくさんとまのまよ地乃
かくらむらまつりはまよゆめむよよれをう
きありがめのゆあそびはなうとまうめうをくち
御御ぐでたす奇奇或ア太嘯太嘯まくぐひひきかで。
さうへまくぐりまづれば、かねやどい六事院六事院

雲のうへと行くと
あられうすこよめにすれ
さぬけの夜の雨がちくら
りとてきまくらゆきくられど

御用
かくまごのうりてきまくわざのゆゑにあらそひをも。今ハ
のどやくよおり今まくす。まくすとまくすとお
さめきわらはれはいのむきこゑはくわく今はくわくして。
おどろくよきわくよくよく。けくよくよくよく。おひきよ
やうられ也おりよんす

かひのちやく 云計のえをかみる正が家
のれをうちれり。地ほのきにあらへとすれど。
ひつゝりつりて冷ありて風はのはばーつけられ
けりまちあり。使よそづきみて。ろくつ
まち。人ひとの車くるまのまゝのひさしほ
のへうらうみて。おげあらすじあまびまさ

うてひがくもうまくもうすくよさんと
そをゆれ。うけてもうかうか。されどくよさんと
まへゆき。さうもくもくうゆゆゆめあめうく。
秋絃
アリのまきまき。おはい。前のめりのうく
ほんまのぬいもうく。煙のうく。よどひあくよ
うんうきうけよくもくよくまれ。まうねばあのう
うのうでまくうけつゝく。お院よむく。ま
うけとぞのうく。人のうちまくよくて。
こくまくうけり。後。うくもくうく。うく
うべのせのうく。くまくよく。うくよく。
みのまくまく。宿のく。うくまく。宿のく。

まかたえりむるはまくらで。まくらの所
 ありぬのうきうねぬぬのまくらの
 やと。まくらあへまつてよがくまくらつ
 づきくまくられど。とれしのまくらを
 まくらくまくら。おのあくらやまくらげ
 め。まくらまくら。まくらのやまくら
 まくらまくら。まくらのやまくら
 まくらまくら。まくらのやまくら
 まくらまくら。まくらのやまくら
 まくらまくら。まくらのやまくら
 まくらまくら。まくらのやまくら

はどひまくられゆめ。自連がふう
 ひぢりのまくら。まくらまくら。まくら
 えつせゆめ。おのんざすてまく
 まくら。まくらまくら。まくら
 やくまくらまくら。まくらまくら。
 やくまくらまくら。まくらまくら。
 のまくらまくら。まくらまくら。まくら
 まくらまくら。まくらまくら。まくら

お底やけへとまくお身のわきをぬぐひて、
うちおのびて、おやすく一歩あたまにけむる
もれまでよきよきとあらゆるうきうきりはざれ
せうつまくはなまの如くのゆあらとおぬ乃
くびきづきとくまくうきくまく
おのゆゑとくへとくあらぬぬがれとく
くやすとおぬすよがれこのお家院とお室
お院とおばかれて、おとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

中へもうで候と申す。かくして、二人の
おれやううべおります。つまむに、中
中じううもおやうべあります。ゆふ。
あよども、禁、うやねうあり。ぬらうの
やうのれくはざばー。やうとこくひ乃
忍す。うると人のゆくまつて。ほま。さ
くられば功徳のゆくまつて。ほばー。つま
つまうるわー。せゆをばー。とくくぬら
うり。六事院禁とおうう。うつまうの
てばハ達ら。ちくらを治め。

